

季刊 広報誌 2023 50周年記念号

Vol.48

虹



特集

開院50周年

1973-2023

ご自由
にお持ちください



IMS〈イムス〉グループ 医療法人財団 明理会

鶴川サナトリウム病院

理念 安心と信頼の医療サービスの提供



節目を**変化**の契機に

当院は1973年に、この町田市鶴川に「鶴川精神サナトリウム病院」として産声を上げ、2023年12月に50周年を迎えます。今も変わらず当院がこの地に在り続けているのは、地域の皆様に支えていただいた歴史によるものだと感じております。まずは深く感謝申し上げます。

当院は、50年の歴史を認知症と共に歩んでまいりましたが、50年におよぶ当院の歴史の中でも、この10年ほど大きく変化を感じた時代はないのではないかと思います。世界で類をみない少子化、高齢化、医療をめぐる情勢の変化などが目まぐるしい令和という時代。2025年には5人に1人、700万人が認知症になると言われ、当院が果たすべき使命と負うべき責任はさらに大きくなり、広い分野を横断するような診療体制が必要になってきていると感じています。多くの高齢者の方が呼吸器疾患・脳血管疾患・心疾患・消化器疾患・腎疾患・神経疾患等を抱えながら生活する中、認知症を合併しているために思い通りの治療やリハビリが受けられない現状があります。我々は、あらゆる疾患に対応できる病院として、一般病棟、回復期リハビリテーション病棟を新たに加え、認知症（慢性期）の総合病院に機能を近づけていきたいと考えております。そして、いずれも治療の提供のみならず、これまで実践してきたノウハウを生かし、介護・福祉サービスの調整を含む退院支援を総合的に行うことで、より本質的な意味での認知症中核医療機関として、長期療養だけでなく、「治療をして家に帰す」という医療機関として当然あるべき体制を有し、「地域医療機関や介護福祉事業者、行政機関とを繋ぐハブ機能」をもった医療機関として、地域の高齢者医療に貢献する所存です。

医療や社会情勢がますます複雑になるであろう、これからの未来を簡単には予測できませんが、地域で希望の旗をしっかりと掲げ、「その人らしく生きるを支える」精神を共有、実践し、この時代を地域の皆様と乗り切る一助となるよう邁進してまいります。そして今後60年、80年、100年と当院が存続していくことを強く願い、ご挨拶とさせていただきます。

院長 林重光

沿革

昭和 48年12月

鶴川精神サナトリウム開設（病床数126床）

56年10月

医療法人財団明理会 鶴川サナトリウム病院に名称変更
築病床数314床

58年3月

改築 病床数332床

平成 2年4月

南棟完成

2年11月

増築 病床数662床

12年4月

通所リハビリテーション開設（介護保険）
居宅介護支援事業所開設

16年9月

北棟完成

17年9月

病床数662床（一般81床、療養127床、精神454床）

22年3月

改修工事完了（南棟、中央棟）
病床数587床（一般81床、療養127床、精神379床）

25年10月

東京都災害拠点連携病院指定

27年9月

東京都認知症疾患医療センター（地域連携型）指定

29年2月

MRI（1.5テスラ）導入

31年4月

訪問リハビリテーション開設（介護保険）
介護予防訪問リハビリテーション開設

令和 2年11月

訪問栄養相談開設（介護保険）

3年12月

公益財団法人 日本医療機能評価機構 病院機能評価 認定

4年1月

電子カルテシステム導入

4年4月

MCIトレーニングスタジオ「ASMO」開設（精神科ショートケア）





鶴サナと 共に歩んだ看護師人生

副看護部長
小倉 加代美 勤続 42 年

振り返れば、昭和 56 年 3 月、鹿児島県から上京し、とても緊張しながら当院の正面玄関に立ったことを今ではっきりと思い出されます。当時は木造 2 階建てとコンクリート 3 階建ての建物が、ひっそりと真光寺の山中に建っているような雰囲気です。「う〜ん古い病院だな」が第一印象でした。当時は精神一般と高齢者、認知症（当時は痴呆症）の患者さんが入院されており、畳部屋で患者さんと一緒に洗濯物をたたんだり、作業療法的なケアを行っていました。時が進むに連れ、中央棟、南棟、北棟の順に次々と増築や建て替えが行われ、職員数も増え、病院としてより充実した形に変化をしていきました。真光寺町内の催しなどにも多く参加させていただき、夏祭り、サンマ祭り、芋煮会、年末には餅つきと、四季折々に地域の方々との交流があり、職員と共に笑いあった楽しい思い出が数多くあります。

また、平成 16 年に痴呆症から認知症への用語が変更されてからは、認知症の捉え方が大きく変化し、当院は町田市唯一の認知症疾患医療センターとして、認知症専門医療の提供のみならず、地域医療機関や行政との連携を担う中核機関となりました。改めて入職から 50 年近くを振り返ると、揺れ動く時代の中で、患者さまや職員と共に作り上げた 50 年であったと感じます。社会を取り巻く状況は、より複雑になっておりますが、今ここにいる人々は今も昔も何も変わりません。当院の思いを、これから先も変わらず引き継いでいけることを願っています。

History

2023《1973



外来診療

	12/30 土	31 日	1/1 月	2 火	3 水	4 木
午前	通常	休	診			通常
午後	休	診				通常

年末年始の診療は上記の通りとなります。無料送迎バスは通常運行しており、年末年始は年末年始時点の面会条件に準じます。



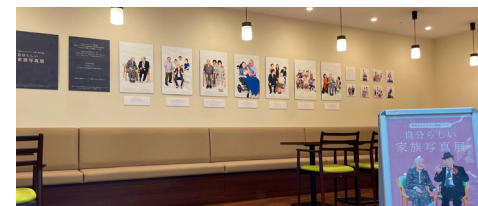
新型コロナウイルスの影響による、禁煙補助薬の出荷停止にともない、禁煙外来を中断しておりましたが、貼付薬の十分な供給が再開されたため、禁煙外来の受付を再開いたしました。予約制のためご希望の方は代表番号までご連絡ください。

年末年始の診療について



入院患者さまに気分良く過ごしていただくために、10月から病衣が新しくなりました。機能面はもちろん、新色の「あずき色」を取り入れ、気分や好みで好きなお色を選ぶことができます。

病衣が新しくなりました



「世界アルツハイマー月間」に合わせ、患者さまとご家族による「自分らしい家族写真展」をイートインスペースで開催しました。7つの家族のかけがえない瞬間と、素敵なストーリーを写真と共に展示しました。

アルツハイマー月間 家族写真展

禁煙外来再開しました

病棟イベントや取り組み紹介
— 認知症身体合併症治療病棟 —

当院は機能別に12の病棟に患者さまが入院されています。長期入院の方が多いため、快適に過ごしていただくよう、それぞれの病棟で工夫を凝らしたイベントや取り組みを行なっています。



アルツハイマー月間企画

オレンジ
ガーデニング

認知症のシンボルカラー「オレンジ」のキバナコスモスを患者さまと一緒に育てました。種まきから水やり、花壇の整備などを行ない、綺麗な花が咲きました。花を育てることは、時間の流れを感じ、見当識障害による混乱や不安を緩和する手助けとなります。



牛乳を加えてまろやかチャウダー風

和と洋の
コラボレーション

季節を楽しむ素材のレシピ

里芋たっぷり
ミルクみそ汁



ポイント

味噌と牛乳を1:1で合わせたミルク味噌を使うことで、減塩ながらもおいしく召し上がれるアレンジお味噌汁です。また、里芋のぬめり成分は、食物繊維の一種で腸内環境を整え、血中コレステロールを下げる働きがあります。

- ★味噌 大さじ1
★牛乳 大さじ1
★和風顆粒だし 小さじ1/2
水 300ml
里芋 2個
人参 1/4本
こんにゃく 1/4個
ネギ 適量

- 作り方
① ★をよく混ぜる
② 水に里芋、にんじんを入れて熱し、煮立ったらこんにゃくを入れて煮る
③ 火を止めてから、①を加えてよく溶かす
④ ネギを盛り付けて、完成

認知症看護
認定看護師

“こんな時どうする”
認知症の方との接し方



認知症の家族に対してイライラするのは私が悪いのでしょうか

「イライラする、限界だ」「優しくできない自分が嫌になる」「介護をするご家族の方から、このような声をしばしば聞かれます。ご家族が認知症と診断され、これまでできていたことが、できなくなるのですから、すぐに受け入れられる人などいませんよね。例えば意図がうまく伝わらず、暴力を振るわれる等の行動が見られた時、それが認知症によるものだとは分かっていても、「何で私がこんな目に」と絶望感を抱くこともあるでしょう。仕事としてなら「認知症とはそういうもの」と思えますが、それが家族であれば、どこか期待し、一挙手一投足にイライラするのだと思います。これは、多くの人が抱く感情でもあるので、あなたが「悪い」と思う必要は全くありません。



認知症看護認定看護師
内田 愛美

しかし、介護者がイライラすると、ご本人の不安も強くなり、更にさまざまな症状を引き起こしてしまいます。ストレス耐性には個人差があり、対処法も人によってバラバラですが、一般的にイライラしたときは「その場を立ち去る」「ストレッチ」「呼吸置く」という方法が良いと言われています。また、同じような境遇の人が集う「認知症カフェ」に参加し、気持ちを吐き出す場を持つのも良いと思います。それでも限界だと思ったなら、信頼できる人や施設を探し、任せると良いのです。

認知症も含め、老いるということとは、さまざまなことができない過程です。直視するには時間が必要だとは思いますが、無理をして1人で抱え込もうとせず、心の安寧を保つ手段を見つければ、適切な距離感でお互いが安心して暮らせることを第一に考えていきましょう。

大切なのは「心の繋がり」です。

MRI・CT 機器共同利用のご案内

機器共同利用とは、当院の医療機器 (MRI・CT) を、地域の医療機関の先生方にも利用いただけるシステムです。患者さまは当院にて検査のみを行い、画像データや読影レポートをご依頼元に提供いたします。先生方の日々の診療にお役立てください。

即日対応が可能

- 検査画像のデータは検査当日に患者さまにお渡しいたします
- 検査画像にはビューワ機能も備わっており、お手持ちのパソコンでも閲覧できます
- 読影レポートは2～3日で郵送いたします (急ぎであれば即日対応も可)
※造影剤を用いた撮影は行っておりません



MRI 1.5T



CT 16列



部位・疾患

頭部・脊椎・頸椎・胸椎・腰椎

脳梗塞	閉塞性動脈疾患
血管性認知症	脊柱管狭窄症
くも膜下出血	椎間板ヘルニア
脳動脈瘤	脊髄腫瘍
脳動脈奇形	など

MR胆道膵管撮影(MRCP)も対応可能です

ご予約の流れ

- 1 鶴川サナトリウム病院 放射線科にお電話をいただき、
①～④についてお知らせください

放射線科直通 TEL/FAX 042-737-1253

受付時間: 8:30～17:00

① 検査名 (MRI/CT) ② 検査部位 ③ 検査希望日時 ④ 患者氏名

- 2 【診療情報提供書】を作成し、当院へFAXしてください

- 3 当院で検査予約票を作成し、貴院へFAXで送信いたします

- 4 患者さまに【診療情報提供書】【検査予約票】をお渡しください

事前契約を行うことにより、会計やレセプト請求をご依頼元の医療機関で行っていただくことも可能です
契約については 電話 042-735-2222 地域医療連携室 までお問合せ下さい



東京都指定 認知症疾患医療センター
IMS(イムス)グループ 医療法人財団 明理会

鶴川サナトリウム病院

日本医療機能評価機構認定病院



【空床状況】



無料送迎バス 小田急線「鶴川」駅約8分
つるさな 京王線「若葉台」駅約8分